

総合学術研究科における3つのポリシー【情報マネジメント専攻】

■教育理念・目的

情報学と経営学をシステム科学分野、社会科学分野及び企業マネジメント分野に分け、3分野の学問を包含した横断的な教育プログラムを提供することにより、各分野のさらに高度な専門知識を教育・研究し、情報化と企業マネジメントの高度化及び各分野における研究開発に対し、指導的役割を果たす人材を養成します。

◆学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

情報マネジメント専攻では、教育課程に従い、人材育成目標及び学修成果に裏付けられた力を身に付け、所定期間を在学して必要とされる単位を修得し、修士論文審査及び最終試験に合格した学生に、「修士（経営情報学）」の学位を授与します。

【人材育成目標】

社会の情報化や組織のマネジメントに対して、即戦力を持ち指導的役割を果たす人材を育成します。
社会ニーズに対応できる高度な情報技術力とマネジメント能力を持つ人材を育成します。

情報システム分野では、高度な各種情報システムの分析・評価や設計・開発・運営ができる人材を育成します。

情報社会科学分野では、現代社会が直面する諸問題解決に向けて科学的に取り組むことができる人材を育成します。

企業マネジメント分野では、経営組織における戦略策定・企画や新産業・新規事業の構築・推進ができる人材を育成します。

各分野における研究開発において指導的役割を果たす人材を育成します。

【学修成果】

<情報システム分野>

高度な各種情報システムの分析・評価や設計・開発・運営ができる情報分析力や情報技術力を養成します。

<情報社会科学分野>

現代社会が直面する諸問題解決に向けて、科学的に取り組むことができる思考力と判断力を養成します。

<企業マネジメント分野>

企業の本質を理解できるマネジメント能力及び企業の情報化に必要な情報処理能力を養成します。

◆教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

【教育の特色】

- （1）最新の情報理論・マネジメント理論及び情報科学教育・マネジメント科学教育を重視します。
- （2）学部教育との接続を重視したカリキュラム構成を採用し、課題解決能力の飛躍的向上を目指します。
- （3）大学院における研究成果の地域社会への公開と還元を実施します。

- (4) 講義と演習の提供により、実践力と研究開発力を着実に向上させます。
- (5) 留学生の受入れへの対応を行っています。
- (6) 昼夜土曜開講を実施しています。
- (7) 長期履修制度を導入しています。
- (8) 計画的な指導を実施するために研究指導計画書を導入しています。

【専門教育科目の構成】

3つの専門領域（情報システム分野、情報社会科学分野、企業マネジメント分野）における多彩な講義・演習科目を配置しています。

【専門教育科目の特色】

情報学と経営学を、情報システム科学、情報社会科学、企業マネジメントの3分野に分け、各分野の学問を包含した横断的な教育プログラムを配置しています。情報学を各分野に活用・応用できる人材、マネジメントの知識を有する情報技術者、経営組織における戦略策定・企画や新産業・新規事業の構築・推進ができる人材を養成します。また、博士課程への進学を推進することにより、さらに高度の専門教育・研究の機会を提供します。

【学修環境】

ゼミナールや演習を重視した少人数教育を行います。更に、国内外で活躍する企業人や研究者による特別講義を実施します。最新のソフトウェアやデータベースを有する情報マネジメントシステム演習室環境を提供します。

【DPとの関係】

最新の情報理論と最先端のシステム科学、社会科学、企業マネジメントに関する各理論を融合した実問題解決型の大学院教育を実施します。

- ・ 高度な情報技術力とマネジメント能力を養成します。
- ・ 情報システム分野では、各種情報システムにおける諸問題解決の方法論と実践を研究対象とします。
- ・ 情報社会科学分野では、現代社会が直面する諸問題解決の方法論と実践を研究対象とします。
- ・ 企業マネジメント分野では、企業・行政・NPO 等経営組織における諸問題解決の方法論と実践を研究対象とします。

【学修成果の評価方法に係る基本的な方針】

学修成果の評価については、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し適正な学修時間を確保した上で、学期中や学期末に行う筆記試験・レポート等のほか、プレゼンテーション、討論への積極的な参加度や貢献度等によって総合的に評価します。具体的には、コースカタログ・シラバスに各科目の授業目標に基づく配点割合等の多面的評価基準を示した上で、学修成果を厳正に評価します。なお、学位論文に係る審査は、本専攻において定めている「学位論文に係る評価基準」及び「学位論文審査及び最終試験実施要領」により審査します。

◆入学者受入方針（アドミッション・ポリシー：AP）

【求める学生像】

- ・情報化の戦略策定・企画等、高度な情報システムの設計・開発・運営に関心を持つ人
- ・新産業の創出、新規事業を計画・推進したい人
- ・組織（企業、自治体、各種団体）の直面する諸問題の解決に関心を持つ人

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜、外国人留学生特別選抜（日本語課程、英語課程）のほか、推薦募集を実施し、求める学生像に従った学生の受入を目指しています。

〔一般選抜及び外国人留学生特別選抜（日本語課程）〕

試験の得点（小論文、口述試問、英語）及び出願時に提出を求める書類（出身学校の成績、研究志望調書）の内容を総合して選抜します。まず、小論文と口述試問では各専門分野における諸問題への関心度、専門性、志望動機、意欲、論理的思考力等を点数化して評価します。次に、出身学校の成績、研究志望調書、英語（TOEIC/TOEFL スコア証明書）では各専門分野における研究に必要な基礎力を点数化して評価します。

〔外国人留学生特別選抜（英語課程）：海外学術交流協定締結校〕

優秀な留学生を確保するため、本学の海外学術交流協定締結校によって推薦された学生から選抜します。出身学校の成績、出身学部長の推薦書、英語（TOEIC/TOEFL スコア証明書）、研究調書をそれぞれ点数化し、総合的に評価します。まず、出身学校の成績、出身学部長の推薦書及び英語では、各専門分野における研究に必要な基礎力を点数化して評価します。次に、研究志望調書では各専門分野における諸問題への関心度、専門性、志望動機、意欲、論理的思考力等を点数化して評価します。なお、学部成績の優秀な学生を選抜するため、推薦対象は出身専攻（またはクラス）の上位 30%の成績を有する学生、または本学専攻長が同等の資格があると認める学生に限定しています。

〔外国人留学生特別選抜（英語課程）〕

試験（口述試問）の得点及び出願時に提出を求める書類（出身学校の成績、研究志望調書）の内容を総合して選抜します。まず、口述試問、研究志望調書では各専門分野における諸問題への関心度、専門性、志望動機、意欲、論理的思考力等を点数化して評価します。次に、出身学校の成績、英語（TOEIC/TOEFL スコア証明書）では各専門分野における研究に必要な基礎力を点数化して評価します。

〔推薦募集〕

試験（口述試問）の得点及び出願時に提出を求める書類（出身学校の成績、研究志望調書）の内容を総合して選抜します。まず、口述試問、研究志望調書では各専門分野における諸問題への関心度、専門性、志望動機、意欲、論理的思考力等を点数化して評価します。次に、学士課程における成績の優秀な学生を選抜するために、出身学校の成績の配点を高くして各専門分野における研究に必要な基礎力を点数化して評価します。